

授業科目	小児看護学演習	実務経験	開講時期	単位数	授業形態	時間数
		◎	2年次後期	1	講義・演習	30時間
達 目 標	1.小児看護に必要な技術が修得できる。 2.子どもの特性をとらえ健康障害をもった子どもの看護の展開ができる。					講師
						専任教員
授業計画						
1～ 2回	看護過程事前学習の提示 子どものアセスメントの視点と技術：コミュニケーション、フィジカルアセスメント、VS測定、身体計測					講義
3回	安全に対する技術：ベッドの選択、抑制、環境整備 入院・治療・検査に伴う不安への援助：プレパレーション(企画)					講義・GW
4回	看護過程①：事例紹介、情報収集・分析の視点					講義・GW
5回	栄養に関する援助：成長・発達に応じた食事、人工乳の授乳方法、離乳食、経管栄養法					講義
6回	排泄に関する援助：オムツ交換、綿棒刺激、浣腸、トイレトレーニング 清潔に関する援助：成長発達に応じた清潔のケア(清拭、入浴介助、衣服の選択と更衣)					講義
7～ 8回	VS測定、身体計測、オムツ交換の実際(人形を使用しての実施とリフレクション)					校内演習
9回	看護過程②：各クラスタのアセスメントの発表					GW
10回	診察に伴う援助：与薬方法と工夫(内服・注射・座薬)、検体採取(採血、採尿、腰椎穿刺、骨髄穿刺)、呼吸を助ける援助(酸素療法、吸引、吸入)					講義
11～ 12回	内服介助、採血、腰椎穿刺、鼻腔吸入の実施(プレパレーションの実施、リフレクションを含む)					校内演習
13回	看護過程③：問題点の抽出・優先順位の決定、関連図ポイント					講義・個人ワーク
14回	看護過程④：目標の設定、計画立案、実施・評価の視点					講義・個人ワーク
15回	まとめ					GW
評価方法	選択肢問題又は論述問題による筆記試験(40%)、看護過程の展開(30%)、レポート①(10%)、レポート②(20%)を総合して評価する					
教科書	系統看護学講座 専門分野 小児看護学①小児看護学概論小児臨床看護総論 医学書院 系統看護学講座 専門分野 小児看護学②小児看護学各論 医学書院 根拠と事故防止からみた小児看護技術 医学書院					
備考	予習においては目的対象論、方法論で学んだ内容を復習しておく。また、テキスト、関連書籍の該当ページを熟読するとともに、理解できない箇所を明確にする。復習においてはテキスト、講義資料・参考文献を用いて学習した内容を整理し、理解を深める。					